

箱の通に番	箱の番	完全品	飾棚に陳列したるもの	12は土器の数を示す	参考資料として特に注意すべきもの(12の数字は箱中の土器の番
17	8	ハ、ニ、ホ、ツ、製作過程偶然的に文様の如くに現れたるもの	ハ、ニ、ホ、ツ、製作過程偶然的に文様の如くに現れたるもの		
16	7	イ、直線交又文	イ、直線交又文		
15	6	直線交又文	直線交又文は此所出土の土器文様として珍しきものなり		
14	5	沈状文様の各種	沈状文と直線文の混用		
13	4	頸、胴、脚、部	11		
12	3	口唇、頸、胴部	7		
11	2	口唇、頸、胴部	13		
10	1	素地色	7		
9	9	高坏台部	4		
8	8	底部	3		
7	7	底部	2		
6	6	胴、脚、部	2		
5	5	頸部	4		
4	4	頸部	8		
3	3	頸部	1		
2	2	口縁部	10		
1	1	口縁部	10		

出土品整理概目

○土器類

一、器類

完全品

口縁部

胴部

脚部

高坏の各部

波状文様

直線文様

無文様

一、文様

波状文様

直線文様

無文様

○石器類

一、色合

丹塗

素地色

色合の標準

○其他の伴出物

○主題の場所以外より出土したる参考品

27	26	25	24	23	22
素地色	丹塗	丹塗	丹塗	丹塗	丹塗
6	5	4	3	2	1
名種色合の標本的のもの	名種色合の標本的のもの	内外別色	内外別色	内外別色	内外別色
1 赤褐色	2 濃褐色	3 淡褐色	4 淡赤褐色	5 煤褐色	6 煤色
284	235	345	390	364	376
285	235	345	390	365	377

一、色合

丹塗

素地色

色合の標準

○其他の伴出物

○主題の場所以外より出土したる参考品

○石器類

打製にして穴を有せず、極めて粗造なるもの

刃部打製にして手中に把握する部分は自然面なり

其内の一個は丹褐色を呈す

附着せるが如く、濕氣を附着せるが如く、濕氣を附すれば鮮朱色を呈す

此石の凹所に丹褐色料の附着せるが如く、濕氣を附すれば鮮朱色を呈す

前記丸石と共に此石は土器製造の用具、色料は分拆に依つて確定すべきものなり

彌生式土器の伴出物としては極めて珍しき重要な資料なり

其滑面は人工を加へたる如くに滑平なり

同一個所より出土したる石類

○其他の伴出物

祝部土器片

釉薬の光澤を有する硬質土器片なり

石器時代曲玉に類似したる形状にして、人工を加へたる如くに見ゆ

右の三品は此主題の所發掘の際に伴出したるものなれども其層位不明なり

何の骨なるや専門的の調査を要す

○主題以外の場所より出土したる参考品

粘土原料

主題の個所を隔つる數尺の北東方より出す、専門家の分析を要す

丹の原料

附近に發見のもの

箱の左隅にある土器の波状文、直線文は前記標本中にも無きものなり

千枚漫語

千葉 高島 生

三四月の年度替りの忙しきにかまけて、漫語の執筆を怠つたら、その惰性のためか、近頃原稿を書くことが怠惰でならなくなつた。それにもと、漫語は、時報の内容が氣に食はなくて、編輯上の私見を發表した行きがかりから、責任の半分を分つ意味で起稿したのであるから、時報の内容の改善された今日、あまりその必要を認めなくなつたことも中絶した原因の一つである。

然るに最近諸友から、『漫語の載らない時報は寂しい』とか、『千枚健在なりや』ナンテ頻りに言つてくる。又六月號をみると、編輯子が原稿不足の悲鳴をあげて居るから、義をみてせざるは勇なき世の俠氣と、オダテにのる甘さと、身中見舞に代へようとすするズルサとの掛合で、四月アリて執筆する次第である。

三四月の候、京濱から東海道京阪の地方を旅行し、又東京の會議等て初対面の同窓に會ふ機會が多かつた。その時『私が千枚で……』と挨拶すれば、『あッ！あ

拜啓

酷暑の砌益々御清祥之段奉慶賀候。儲て小生在外中は色々御芳志に預り難有奉謝候。御陰様を以て去る七月十日無事歸朝仕候間乍他事御放念被下度候。乍峯儀以紙上御禮旁々御挨拶申上候。 敬具

昭和十年八月

古谷 榮藏

千曲會員各位

の漫語の千枚さんですか、いつも面白く読んで居ます』とニコニコする。満更お世辭ばかりではないらしい。人間には自分と他に、認識させようとする本能がある。年賀状や暑中見舞もその現れの一つとみる事が出来る。この意味に於て千枚漫語は私の存在を示すのに、最も有効と思ふから、この際暑中見舞の代りも勤めさせようと云ふケチな考が起るものである。

○

最近の時報は『死亡通信』とても改題したい位毎號『訃報』と、故人の追憶記とて賑つて居る。試みに本年に入つてからの分だけを調べてみると、

- 一月號 佐藤愛之君(蠶九)
- 二月號 井上泰利君(蠶十九)
- 小林貫一君(蠶十五)中曾根誠一君(蠶廿一) 馬場政友君(蠶十) 佐藤彰二君(蠶九) 品川末夫君(蠶九) 仙場秀次郎君(蠶一)
- 三月號 馬場豊君(蠶十八) 武田豊太郎君(蠶八) 山崎とも君(蠶一)
- 四月號 梅澤庫太郎君(蠶五) 居相泰一君(蠶六) 越智岩平君(蠶九)
- 五月號 なし
- 六月號 原亮敏君(蠶二) 沼田周造君(蠶十三) 市川たつ君(蠶二)

ザツト右の通りである。

死亡會員と卒業年次との相關々係ナンテ何だか博士論文の種になりさうな氣がする。その他學業成績と生命の長短とか卒業後の環境と壽命とか、死亡者の多少と蠶の作柄との相關とか、研究慾に燃えて居る我が同窓の中から、何か新しい研究が出さうなものである。差當り『姓名判斷學』より觀たる死亡會員』と題して論文を書く有志はないか。

○

去年の十月號に、同期生の寫眞アルバム計畫を提案した漫語の中に『卒業後二

十年も経つと云ふのに一人の死亡者も出さない蠶二生は確に不思議の存在ではないか。併し之から先はさうも行くまいから……』と書いて置いたら、果して四月二十五日に原亮敏君が死んで了つた。『鬼も角一同揃つて居る間に是非實現して置きたい』と願つたアルバムの中から、到頭一名缺けたことは返すも残念である。これ以上缺けない内にと思つて、今私の手許でセッセと計畫の具体化を急いで居る。

○

蠶二生の卒業する時、私は『フリスヒ』と題する小冊子を印刷に附して、之を同期生に配つた。内容は罪のない人物評論で、ニックネームの由来を説き、その人の性行を語つたものである。その『はしがき』の一節――

人間はドンナ傳い人だとして神様でない以上缺點のない者はなく、それと同時に又少しのとりえのないと云ふ者も居ない。私共のクラス三十三名の内、程度の差こそあらうが誰一人長所を持たない者はなく、又短所を持たない者もない筈だ。そして私は一様に敬慕すべきクラスメイトとして交際して居るつもりだ。併しさう言つて了つては月且も何も出来はしない。要はたゞ記念としての試みである。だから茲に罵詈雑言を加へたからとて其人を他の人より蔑視した譯ではなく、たゞ特長を捉へて書いた迄である。賞讃されたからとて已惚れてはならず、冷罵されたからとて怒つてはならぬ。何事も怒つた方が負だと思へ、印は當時の流行語である。その由来は後日に譲る。

○

併て『フリスヒ』に現れたる原君の偉如何。同君は學生時代は有賀君と謂ひ、卒業後原姓を冒したのである。ニックネームを『盲腸』と呼んだのは、君が嘗て盲腸炎をやつて上田病院に入院した事があるからで、洋風にインテスチンとも呼んだ。養蠶實習の時、お國自慢に話がはずんで、松本(君の生れ故郷である)の蠶業取締所は日本一大きく、顯微鏡の数が何百台あるとか自慢したので、又の渾名を『顯微鏡』とつけられた。由来松本人はイゴイスチックの所があると言はれて居るが、我が盲腸君は全くの例外で、未だ君に關して非難をきいたことがなく、資性恬淡にして小事に離離せず、オ世辭はないが陰險の所もないと褒めてある。

○

盲腸子が卒業後國立蠶試福島支場に居た頃、宮城縣に居た私は、上京の途次同君の寓居を訪問した事があるが、その後郷里に引込んで三澤屋藥舗の主人に納まつてからは、年賀狀の交換だけで、その消息を詳にするの機會がなかつた。今回消息も死後一ヶ月以上同窓に知れなかつた事程左様に、最近の同君は吾等のグループから、かけ離れた存在であつた。

以上をものした處へ丁度來客があつて話題は自然時報の事から母校の噂に及び更に子弟の教育と學校の選擇と云ふやうな問題に就て語られた。來客はその伴を今春三重高等農林へ入學させ、之に附添つて津の學校まで行つてみたが、その校風に悉く感心して來たと云ふ。以下その來客からきいた話――

も新入生を先に入れたと云ふ。學生は校門を出る時、振返つて校舎に敬禮する――小學校ではよくある例だが専門學校では珍しい。新入生の中に頭髪をオールバックにして居た者があつたら、短くするやうにと上級生が靜に注意した、寄宿舎には共済俱樂部と云ふものがあつて、備付のバリカンで相互に刈合ふ。バリカンの損料金三錢也、又安全剃刀を使へば金二錢の損料を出すことになつて居る。体操の時間には、庭球、弓術、擊劍等何でも志望の運動をやることになつて居て、號令をかけて手を上げたり、腰を曲げたりする体操をやらぬのださうだ。

○

先生が新入生に訓示して言はれるのに本校では一旦入學を許可した以上、眞面目に學生の自分を盡しきへすれば、試験の答案は白紙を出しても落第させるやうなことはしない。たゞ不眞面目な行爲があれば容赦なく退校させる。卒業後の就職に就ては學校で必ず世話してやるから安心して居るがよい。上級になつて煩悶する者が出るので、よく事情をきいてみると大抵は學費不足のためだ。ソナナ時には學校へ相談すれば奨學資金を貸してやる途があるから獨りて心配しないやうにと。

○

全く教授と學生との關係は親子の如く上級生と下級生との關係は兄弟のやうでソナナ良い學校へ伴を入學させることが出来てポイントに安心だと、來客は心から三重高農の校風を謳歌して語つた。

○

右は皮相の觀察か、眞相に觸れた觀察か、私は之を知らない。又私は最近の上田の校風を知らないで、茲に紹介したことナンカ敢て珍しくない事なのかも知らない。同校には篠田君(蠶一)が居る筈だから、同君を通じて詳細を紹介して頂ければ幸である。(七・六)

新しい纖維

—最近のニュースから—

横濱 正木章三

急速度の人絹の研究發達に刺戟を受け、全纖維界は擧げて新しいものを造り出そうと努力をつづけ、次ぎに新型の纖維がスマートな名で、その用途を開拓す可く市場へデビューして来る。一寸拾ひ出してもなかく多い。

1、トロピカル

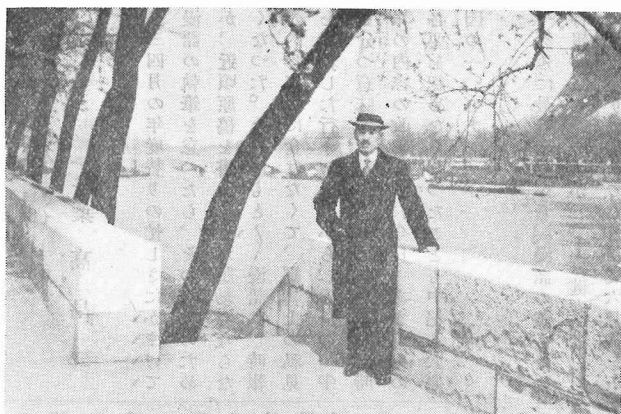
之は粗毛(羊毛)を強く撚つて織り上げたもので、非常にカラツとした明るい感じがする生地で、濕氣の多い日本には殊に向く。純毛のものと、交織の兩種があり國産で立派なものが出る。

2、スパンレーヨン Spun-Rayon

長さ一・五—七〇時のステープル・ファイバーを紡績したもので柔味あり、艶少く上品なり。上等品は廿五%位の絹又は羊毛と混す。

3、スパンダイドレーヨン SpunDyed-Rayon

巴里セーム河畔に立てる古谷教授右に少し見へるはエツフェル塔



之は紡績工程以前に纖維素を染色したもので、紡績した時には既に着色されて居る譯である。ピンクとバラの二色で、甲斐絹類に使用されて居る。

4、セルタ Celta

之は絲の中部に空洞を造つたもので、中空人絹と云はれるものである。光澤を減少し、空洞が一種の絶縁層をなす爲め保温性著しく手觸り柔かく、織物の原料として特殊の性質を有する。

5、ヴィストラ Vistra

スニアフェル Sniatli

羊毛、綿の代用を目的として造つたもので、人造絹絲を短纖維に切斷し、之に波状、縮絨性を與へたもので、羊毛、綿と混織したものもある。

絹紡用としては、長さ一六一—三〇耗、縮絨用には、三〇—七五耗である。

ヴィストラ七五%、羊毛二五%の織物は外観上、純羊毛と殆んど區別が出来ない程との事である。

6、伸縮糸

ヴィスコース絲とラバー(ゴム)を混合した一種の伸縮絲である。紡績法はレーヨンと同じで、廿五デニールの細絲も既に出来たとの事である。婦人肌着、海水着、コルセット等特殊の織布に利用されて居る。

尚純絹の用途を開拓する爲に考察されたものに次の如きものがある。

1、スパンロー Spanlo

之は純絹製の肌着で、びつたりとした着心地良さは、人絹やその他の纖維では出来ないといふ品である。一種のアンダーウエアーである。

2、ルヴェンナ Rivenna

高級の純絹を用ひて製した特殊の薄地透明の天鵞絨で、頸節、抱合等の優秀なるものでなくては出来ないのである。

この他にも馬鈴薯からセロハンを造りセロハンで、夏の運動服、帽子等が製造されて居るのもニュース、パリュウ

がある。現代人の趣向を窺つて流行の可能性のあるものを率先してやる者が勝である。

今後は單純なものは次第に少くなり、交織、混織等によつて、特殊の味を出したものがいよゝ多く現れて来るものと思はれる。

東海道巡り

依田 彌亮

東京にばかり居ると、一種の片輪者になる。同じ道を毎日當刻に行つたり來たり、洵に無味乾燥なものだ。少くとも二ヶ月に一回位は地方に出て行かぬと却而田舎者になる。特に蠶絲業に關係を持つ我等に取つては殊更其感を強ふ。年々よると、蠶も繭も見えずに過すこともある。

筆者は六月初旬静岡愛知三重へと出掛けた。同窓生が各縣共多數見へ皆健在にて奮闘されて居つた。

○丹那トネル

丹那トネルに開通後始めての旅だ。特急燕と張込んだ。熱海の海が見へたと思ふ間にイト快走に箱根の土手腹を無造作に三島へ抜ける。山北驛で機關車の付け替等煩に苦しめられたことを思へば隔世の感がする。

東京驛を九時に發せば静岡には正午に着く。

○駿府城下

駿府城の一角に在る、静岡縣廳の建物は時代物の感を深からしめる。後で聞く近々モダンな大建築が始まると思ふ話だ。

静岡縣廳には岸大先輩が控へて居る。何時も乍ら圓滿な面持ち萬事は俺の腹にありと言つた調子、来るべき名課長の貫録を遺憾無く現して居る心強い限りだ。

製絲の方に佐藤壽雄君(絲十五)が製絲の主任技師の缺員中一手に事務を引受けがメつて來たので其のためか多少健康を害された様に見受けられた。御自愛を祈る。

○人は見掛に依らぬもの

取締事務に太田元(蠶十八)君が名前の通り大元氣でやつて居る。筆者は同君とは謂はゞ師弟の關係にあつたのだ。助手時代に母校の山口助教と一箱に養蠶實習を受持つたことがある。大變眞面目に朗かに元氣に實習をやつた君だ。實習點は確か良かったと思ふ。同君曰く實習の時筆者を非常に怖く見へたさうだ。同僚の山口兄のヒゲ顔より餘程怖く見へたことだ。そんな筈は無い譯だ。敢て同君のクラスメイトに尋ね度いなものだ。人は見掛によらぬもの。

○倉澤教授の敏腕

静岡の蠶絲課長は上田の生れだ。其の爲か信州人の筆者に對しては非常に好感を持つて呉れる様見受けられる。同課に居る佐藤、太田兩君も信州産だ。今後は信州人のみ採用すると言つて居つたがまさか。

○尙此處に特筆大書し度いことは、母校の倉澤兄の敏腕を激賞されて居つたことだ。旅にあつた爲か非常に心強さを覺へた次第だ。層一層の御活躍を祈る。

○蠶界の牧逸馬

愛知縣廳に只一人、曾て在りし文壇の大御所牧逸馬の如く或時は芝荒雄と荒々しく現れ、斯界の大勢を論じ、或は糺し或時は草野史郎と變化し向陽庵央汀として現れ無味乾燥に流れ易い蠶界に一抹の潤いと香りを與へ右往左往行くとして可ならざるは無い。正に蠶界の牧逸馬を僞ばせるに充分である。愈々御自愛變化宜敷きを得其の筆先の愈々牙へ渡るを願ふ次第だ。

○尙此處に附言致し度き事は彼の筆勢と酒との關係に就てである。不相變酒を愛して居る君曰く酒の愛情と筆の動きとはプラッの相關關係を持つて居るとは君ならしては味へぬ現象ではある。

○伊勢路

名古屋で諸用あつて遅れた筆者は明野の蠶業試験場に勤めるクラセメイト松原幸彌太兄に、津驛迄出迎への電報を打つた。桑園主任で目下多忙中であるのも考へず失禮した。併し旅に在つて時間に狂ひの來た時はこれに限る。午後七時に津驛で逢ふ。久瀨を述べ松坂に向ふ。

○松阪の牛肉

天下の神戸肉は東京の天婦羅と同様にすき焼として國際的に知れ渡つて居るが伊勢の松阪の牛肉は左程迄に有名ではない。然し實質上又煮方の變つて居る點で食通の人々には、相當古くから知れて居る。曾ては東京にも其の支店があつて都會人の味覺神經の織細な處を刺戟して居つたことだ。夫れは思ひ出すに美味い。上田の近藤のコウイ肉を牛肉と心得て居られる人々は想像だに及ばない。

○伊勢詣り

明野試験場は陸軍明野飛行場に隣り野廣い所にある。新しい廳舎で人家の稀なのと空氣の良いのとで實に氣持が良い。周圍にある桑園の繁茂具合を拜見致し桑園主任松原兄の御奮闘を僞ぶに充分であつた。

○お伊勢参りは一生に一度を念願するが二度行く處では無いと言ふ地方もある。亦お参りすることにより運の轉向になる運定めになるとも言つて居る處もある。筆者は二度目の参詣である。今後は前半生に比し、イヤが上にも良き運の來る様念願し氣のすが／＼しさを覺へた次第である。

○官界に人影薄し

縣廳には小野修二(蠶七)兄が獨り暗夜に星を望む如く偉影を放つて居る。寡言實行蠶界の中堅處をグツと掴んで居る官界には松原兄と二人共に御自愛御奮闘を祈る。之に引替へ民間會社には鈴々たる一粒撰びの中堅連が文字通り活躍して居ることを附言し擱筆する。(於丸ノ内蠶絲會館七、十一記)

上田便り

市議員選挙 上田市の市議員選挙は立候補三十九名にて七月十七日開票の結果左記三十氏が當選の榮冠を得た。

- 花岡 爲雄 唐澤 勇 小山 昌造 中澤 丙三 坂本新太郎 堀内 正嗣 北村 寛三 柳澤文三郎 葛西 熊吉 丸山 作造 鷺見 保雄 成澤 勇 田中 久藏 細川 源三 上原正之助 島田甲子郎 宮川 太三 石森治三郎 田中文三郎 松尾時次郎 片岡 一朗 須藤 定吉 佐藤 太伸 片岡 一朗 小池 太藏 名取 新一 松井 鳳平 小林九十九 林 幸助 増田 清八

全上田惜敗 全日本軟式野球大會長野縣選大會の決勝戦は全上田對全岡谷にて七月十八日上田市警球場にて舉行二對一にて全上田惜敗し全岡谷は廿九日東京早大グラウンドに開催される全日本大會出場権を獲得した。

上田の祇園祭 上田の祇園祭は恒例に依り七月十八、九の兩日盛大に舉行された。大小五十餘個の神輿が市中を練廻り市議選舉直後の祝賀気分、好天氣、高潮等の好條件に恵まれ非常なる雜踏を呈した。然して本年は珍しい催物として常田子供獅子及房山獅子の出演がめり特に子供獅子は御城固めの常田獅子と共に作られたもので明治以後舞はれた事なく今回は實に八十年振りと云はれ總勢二百人の多數で然も其の大部分は十二、十六才位の少年である。此の爲に長野放送局では特に上田市役所に出張し十九日午後一時半から全國に中継放送を行った。

松茸の走り東京へ出荷 上小地方に於ける特産物として全國に有名な松茸は本年は引續く降雨の爲め發育が非常に良好で相當の増收を豫想されてゐるが去る七月二十一日前年より六日早く松茸の走りが東京市場に出荷された。廿四日迄に青木村よりの出荷は六個計一貫五九六匁に

達し値段は百匁四、五匁位である。本年は未だ下之郷方面から出荷を見ないが漸次出荷される模様である。

第四次瀟洲農事移民壯途に上る 第四次農業移民訓練所入所生卅二名は七月廿五日午前七時一分上田發で各種多數團體百餘名の萬歳歡呼の聲に見送られ勇躍壯途に上つた。一行は茨城縣友部國民高等學校で一ヶ月の訓練を受けて瀟洲國佳木斯に移住活躍するもので出身郡は更級郡五名を筆頭に南佐、上伊各四名、小縣、上伊各三名、北佐、東筑、南安、下水名二名、諏訪、西筑、埴科、上高、下高各一名、計三十二名である。

別所温泉の納涼大會 別所温泉では浴客慰安の爲め納涼盆踊大會を左の日程に依り盛大に開催するが温電では三割引のサービスをふと云ふ。

- 八月六日 七夕祭藝妓手踊大會 全 九日 北向觀世音林檎祭 全 十一日 愛宕池畔子供花火大會 全 十五日 盆踊大會並に煙火打撈 全 十六日 盆踊大會及煙火競技大會 全 十八日 藝妓温習會 全 二十日 愛宕池畔子供花火大會 全 廿五日 大仕掛煙火大會

鐘紡上田工場地均工事大畧完成 上田の鐘紡工場敷地の地均工事も豫想外に進み大畧完了するに至つたので市でも八月末愈々會社へ土地を引渡すので其れから會社直轄で建築に取りかゝる事になつてゐるが時期は九月迄に鐵道省直營(經費鐘紡負擔)の引込線一キロが完成し千曲川の集水工事が内務省より十月迄着工を禁止されてゐる爲め十月の水道工事着工と同時に本建築が行はれるものと見られ第一期事業として五十八間に六十間の人絹及毛織物工場其他の建物工事に着手、機械備付等總工費百五十萬圓乃至百八十八萬圓の豫算にて來年秋頃迄に一切を了して事業開始の運びとなる豫定である。

上小春蘭取引高 上田商工會議所調査に依る上小地方九箇縣市場本年度春蘭取引狀況は、取引數量十七萬二千八百八十八

(内黃蘭三百二十七貫)一貫平均値三圓八十二錢金額合計六十五萬七百八圓八十一錢となり之を前年に比すると數量に於て三萬一千二百七十一貫(一割八分)を減少したが蘭値が貴當一圓五錢高かつたので金額は却つて九萬一千五百十三圓(一割四分)の増となつた。取引量の減少は生産減、特約取引増加等が其の原因と見られる。左に各市場別取引量を示す。取引開始は上田蘭絲の六月十九日最終は丸子蘭絲の七月十九日である。

Table with columns for location and quantity. Locations include 信濃, 上田, 東北, 大屋, 大塚, 丸子, 合計. Quantities range from 301 to 170288.

夏秋蠶掃立豫想 上小地方の夏秋蠶掃立は蠶取上田支所調査に依ると次の如く桑園整理改植及災害に依る收桑量減の爲め前年より八分乃至一割前後の掃立減を觀測されてゐる。

小縣郡 夏秋蠶掃立豫想、百十五萬五千五百一十一匁、前年比八%減 上田市 夏秋蠶掃立豫想、四萬九千二百一十二匁、前年比十%減 上小の蠶桑熱動與 小縣畜産組合輪旋の綿羊貸付申請は六月三十日取纏めた處上田百九頭、和田四十頭を始め浦里、武石、神川、丸子、和、中鹽田、縣、爾津室賀、遊野、鹽川等三百五十頭に上つたが之等尨大な種綿羊が到着した曉には昭和八年度百一頭、九年度百三十頭の郡内綿羊は一躍五百頭に達する譯で綿羊組合を成立せしめホーム、スパン製造に依り完全なる有畜農業經營の指導に乗出す事となつた。

尙現在綿羊組合設立町村は和田、中鹽田、西鹽田、鹽尻、神科にて西鹽田、神科ではホームスパン組合を設立してゐる。 キャンプ用の貸天幕準備 キャンプの

時期が到來するので上田温電では七月八日から菅平の新鹿澤のキャンプサイトの掃除に取掛つたが今年菅平牧場前小林六郎氏方、新鹿澤温泉事務所黒岩治氏方及菅平口に各七張の天幕を用意しキャンパーを待受けてゐる。天幕賃料は定員三人、五人、六人にて一人に付き十錢宛である。

夏山は招く

上信國境の屋根をステツプも軽く

高原の新鮮な緑が誘惑のいきずかいてして居る。初夏から...夏の眞盛りにかけて大陸的な情懷の高山を訪れるのもよいが、何んと云つても万人向で危険が無くスポーツ的で近代的なのは低山趣味である。

七月十七日縣蠶絲課より發表されたが原蠶種は百二十八萬八千八百三十六蛾、普通蠶種は八千九百九十三萬二千三百四十二蛾で前年に比し原蠶種は四十六萬九百蛾、普通蠶種千四百一十一萬七千二百蛾の減少で、減少率は一割四分となつてゐる。その原因は何れも養蠶不況桑園整理等に依り掃立の減少を見越した結果と見られる。

汽車賃割引

東京市内各驛より上田一菅平一須坂一長野一發驛 廻遊旅客賃一金六圓、通用期間七日 上田市 天神町 上田温泉電軌株式會社 電話六五四・九六五



千曲時報記念號原稿募集

母校創立廿五周年記念祝賀は既に三ヶ月後に迫つて居ります。之の際千曲時報も何等か記念となる様な催しをしなければならぬと考へ種々考慮の結果次の様な方法を行ふ事に致しました。祝賀式の前即ち十月號を懐古號とし平常より増頁し創立當時の思い出記事や登載し同時に創立當時の寫眞十數葉を載せ祝賀式を添附する。祝賀式の直後即ち十一月號は祝賀號とし平常より増頁し祝賀式の記事を満載し別に當日の寫眞十數葉を載せ祝賀號を發行する。之は特に古い會員即ち一、二回の卒業生に對しお願ひする所でありませぬ。母校創立當時の思い出の記事や御寄稿を願ひ度いのです。内容は當時の學校の事、先生の事、仲間の事乃至は上田の事その他何んでもかまいません。同時に若しお手元に當時の寫眞が御座いましたら御寄稿致し度う御願ひします。この云ふ事は新しい會員の爲に御座りましたら五周年記念祝賀を前にして最も意義深い事と思ひます。之の催しは會員諸氏の御援助が無くては企てて及ぶものではありませぬ。切に御寄稿を願つて止みませぬ。昭和十年八月 千曲時報編輯係

織維工業學會入會希望者幹旋

本年二月創立せられたる織維工業學會には既に母校職員、卒業生より數十名の入會者を見て居りますが尙本會々員にして入會御希望の向に對しては幹旋の勞を執り度いと思ひますから本會に御申込下さい。昭和十年八月 千曲會

母校ニュース

古谷教授歸朝歓迎會 七月十九日午後六時より觀水亭に於て古谷教授歸朝歓迎會を開催した。出席者は母校職員在田卒業生等五十名に達し先づ校長先生の歡迎の辭、續いて古谷教授の感謝の辭があつて宴會に移つた。一同昔に變らぬ否一層元氣な先生と共に飲み且つ語る事が出来て大に愉快であつた。宴會なる頃蒲生理事長が恩師の万歳と云ふ意味で音頭をとり古谷先生の万歳を三唱して名残りを惜みつつ散會した。三科職員庭球リーグ戦 七月廿七日午後三時より母校職員コートに於て養蠶、製絲、紡織三科職員庭球リーグ戦を行ひ紡織對製絲は五對〇、紡織對養蠶は三對二にて何れも紡織科勝ち製絲對養蠶は三對二にて養蠶科が勝ち了後茶話會を催した。戦績は左の如くである。

Table with 2 columns: 科 (Department) and 戦績 (Record). Rows include 製絲科 (0-0), 紡織科 (0-0), 園芸科 (0-0), etc.

蠶一秋蠶實習開始 絲一の夏蠶實習に引續き八月一日より蠶一の秋蠶實習を開始する事となり三日掃立を行つた。人員廿二名蠶量一人宛二瓦、品種日一〇×支一〇六、日一〇×支一〇五、分離白×支一〇六、平和×安泰、擔任教官は山口助教、濱村副手、小林副手である。市原文雄氏(絲科)榮轉 昨年四月卒業以來母校製絲科に副手として勤務せられし同氏は今回昭榮製絲株式會社須坂工場に榮轉せらるゝ事となり八月六日赴任された。

本會記事

本會日誌

七月九日 故馬場豊氏御遺族へ有志弔慰金贈呈す。七月十日 夏季校外實習生派遣に付關係支會長へ依頼狀發す。七月十二日 静岡千曲會長へ震災見舞の電報發信す。七月二十二日 新築會館の胸突執行す。七月二十五日 長野縣知事宛形像建設許可申請書提出す。同日 新築會館の基礎(コンクリート)工事着手す。七月二十七日 故梅澤庫太郎氏、故居相泰一氏、故越智岩平氏の各御遺族へ有志弔慰金贈呈す。八月六日 新築會館の建事始む。

理博小泉清明兄

結論から云へば小泉兄を以て單に立派な自然科学者であるといふに止らず哲學者、文學者、言より行、仁俠、親思ひの人であるといふ。紙面で限られ又筆者が全的小泉を盡す事は及びもないが、此の一文よく兄の片鱗をだに表はし得れば仕合せである。上田時代から既に平凡な學生生活ではなかつた。京都時代にもはやはつきりと學者並に人間小泉の名を賣り出してゐた。

(二十蠶)氏明清泉小 士博學理新



(山口記)

遭難模様

穂坂 小牧

七月二日夜大阪より練丸に乗船、三日午前一時〇八分右舷中央機部にあたり大響音と共に船體に異常なる「ショック」あり。夢を破らる。岩礁に衝突せるやに思はる。阿鼻叫喚地獄の序幕。直ちに寢衣の上に兵子帯を締め直し裾を端折りて身仕度をなす。電燈消えて海水灌津瀬となり浸入奔湍の音聞ゆ。沈没!脱出を決意し後部甲板の方向に進めば浸水既に膝をひたす。暗中甲板の欄干に取りつく。海上數十間の先模糊の間に巨大なる船船見ゆ(千山丸が衝突後「バック」して停船せるもの)。傾斜既に三十度欄干を超え船腹に立ち力強く本船を蹴つて海中に飛込む。渦巻を恐れて力の限り抜手を切つて泳ぐも潮流早くして中々に進行せず。背泳になりて後を見れば既に練丸の船影なし。重油顔面を覆ひて呼吸困難を覺ゆるも精神は確なるを自覺す。漸くして千山丸の船腹に到るも丈餘の鐵壁攀づるに由なし。船腹に身を横へ僅かに鉄頭に爪を掛け身體の流失を防ぎ「ロープ」の下を待つ。「ロープ」下れども重油に濡れて滑り力及ばず續いて下る。「ボート」に上りて救助さる。辛じて千山丸の甲板に横はり初めて「命あり」の感あれども極度の疲勞と寒冷によりて身體の自由を失ふ。午前四時救護船によりて小豆島に運ばれ續て正午高松市救護本部に收容さる。幾分の重油を飲みたるものか數回の下痢と頭痛を覺え疲勞甚だしきも三日夜の熱睡によりて全く恢復、四日高松市發別府を経て五日無事歸宅六日より平常の如く執務。時間正確なる小生の腕時計は午前一時十分四十秒に停止す。即ち海中飛込の時刻なり。追想するに衝突は一時〇八分練丸の没入は一時十三分、千山丸甲板に救助されたるは同四十分頃ならん。夜半熟睡中僅に數分間の沈没なり。速斷決意、水練の三つは救命に與つて力ありし事と思はる。

支會通信

慘禍！震災の静岡より

地殻下で大蛇が尾端をブルブル動かす、人の世を極度に驚かす地震が起るのだ！、これは往昔から云ひ古された事である。一種の宿命から出發されたものに過ぎないとしても一應其の論法から行くと這般の大地震では餘の奴めが餘程大きく其の尾端を動かしたに相違ない。

七月十一日午後五時二十五分突如静岡清水兩市を中心として襲ひ來つた地震は實に本縣下としては昭和五年の彼の伊豆震災に次ぐものであつた。關東震災以來地震の活動は西へへと移つて行く傾向があると言ひ、駿河灣にも一度は必ず來ると警告されて居たのであるが一瞬にして此の恐怖の巻と化さうとは誰しも夢だに豫期しなかつたことだつた。

突如物凄く激しく共に激しい衝動を感じるや市民は忽ち戸外に飛び出して、徒らに右往左往する様は戦場さながらだつた。到る處慘憺たる地變の跡を示し又電線は切斷され迫り來る薄暮に電燈も點かず、時折けたましましいサイレンが不安と昂奮に自失した市民の神経を揺るがした。刻々傳はる被害の報も又意外な激甚さに市内の不安は一層募る許りだつた。

先づ静岡電信局の電信關係池頭覆のため電信電話は一部不通となり静岡放送局はアンテナ切斷の爲放送中止の己むなきに至り、逆川鐵橋の沈下で列車は不通となり東海道線ダイヤは大混亂に陥つた。次に建築物はと見れば縣廳の赤煉瓦はもうすんでのことで倒壊するところだつた。支關の屋根あゝの古風な時計の傍のストーブの煙出しが斜に曲つて、一部はアスファルトの上に叩き落ち支關上の煉瓦には生々しい龜裂を生じて今にも崩れ落ちさうだ。ちよつと縣廳へ入るのが無氣味な位、近く取壊す縣廳ではあつても少し早過ぎた……廳舎へ入ると蠶絲課と

地方課との境の煉瓦壁が大龜裂を生じて居る。いま一掃れあつたら、もう最後危険の上もないと云ふので、地震の翌日早速縣會議事堂へ移轉して了つた。然し議事堂とて元より完全無缺ではない。矢張り小龜裂を所々に生じて居るし、又屋根の避雷針はへん折れて居ると云ふ有様だ。舊駿府城の昔懐かしい石垣も崩壊し、武徳殿前、聯隊の老松が根をむき出して倒れかゝつて居る。縣廳の正門横の石垣も十時頃突然ガラ／＼と大音響と共に崩れ落ちた。之れも由緒ある駿府城跡外塚の石垣だ。商店街はと見ればショウウィンドーは滅茶々々に破壊し、硝子の破片が關の中に無氣味に光つて居る。殊に藥局、陶磁器店の被害が目につく。興行界でも又面喰つた。畫の部の最後の映畫を映寫中、ドカンと來た。田中絹代の紛しためくらのお琴が目を開きさうな大地震だ。各館共我先きにと逃げ出す観客で實に大混亂を呈した。花柳界でもベン／＼とこのろの騒ぎでなくお休みだ。

これは唯舊静岡市内の慘狀だが、震源地に近い大谷高松方面では軒並の倒壊、或は半壊で、殆んど満足な家は一戸もない。病床から這ひ出し、柱の間に挟まれ、壓死した母の板の間から覗いて居る蒼白い手に縋つて泣いて居る子供の姿等々實にむごたらしい酸鼻の現實だ！。餘りに痛々しい大自然の暴虐振りに全く目をそむげざるを得ない。

結局被害は死者八名負傷者一〇九名全半壊戸數七〇八戸の慘狀で、損害は實に八百二十万圓以上にも及んだ。

我が千曲會員中不幸にして岸先輩のお住居が妙ならずこの震禍を被つた事は……殆んど半壊の狀態……誠にお氣の毒な事だつた。春日町附近は比較的震源地に近かつた事と、新住宅地帯なる爲地盤が幾分ゆるかつた關係でもあつたらう。兎に角東西に添つた壁は殆んど崩れ落ち茶筴箆は倒壊する、ラヂオはスツ飛ぶ、襖

戸障子等満足なのは殆んどない程昨日に變る今日、あの立派なお宅も全く見る影無き有様だ。餘の悪戯のアクロバティックにうらめしく感じられる。然し岸さん初めお宅の皆様微傷だも負はれず御無事だつた事はせめてもの幸だつた。

これに引き換へ岸さんの直ぐ近く音羽町に住むS兄のところでは不思議な程更に被害は無かつた恰度兄が歸宅し様と縣廳前で電車を待ち合はせて居るところドカンと來た。

アレリアツと二分間！地震が止んで氣がついたら美しいメツチェンが兄に取り纏つて居る。兄もてれた。お嬢さんは勿論。それから又少時電車を待つたが遂に不通と解つてポツ／＼歩いたさうだ。悪くない地震風景だ！。地震が生んだローマンス？後はどうなつたか兄も語らぬ。

其の後詳細の調査に依れば被害は豫想以上に甚だしく蠶絲業關係でも七万五千圓に上り一般の損害は一千万圓にも達せんとして居る。

熊本千曲會記事

熊本特有の酷暑が土用入りと共に襲來して來た。

製絲實習生監督に御來熊の林教授歓迎と肥後製絲にて實習中の製絲科三年生上兼君の慰勞を兼ね七月二十五日熊本千曲會總會を熊本の水郷津湖畔東濱屋に開催した。實は七月二十六日に總會を開催すべく會員諸兄へ手配して居つた所突然林教授御來熊の飛電に接し早速豫定を變更し來會の通知が來て居る所へは電報や電話で急報して參會を求めた。こんな譯で出來事が急だつた爲めお客様に對しては勿論會員諸兄に對しても色々不行届の點が多かつた事を御詫びする次第である。

一同の顔が揃つたのが六時半頃でさて納涼船を出さんとする時車軸を流すが如き大雨となりなかく船を出すに到らない。この間一時半餘立往生で狭い客室で各自勝手なメートルを上げて時間を待つた。

雷雨一過大空には星影がきらめき涼味は一段と加はりお客も會員も肴も酒も美妓も船上の人となり岐阜提灯の光も艶めかしく揺れながら船は湖面へする／＼と這つて行つた。涼風はそよ／＼と吹き薄霧は立ちこめ焦熱地獄をよそにこれが夏の夜かと思はする様な涼さだ。

林教授よりは母校の近況特に廿五周年記念事業の事につき詳細御説明あり會員よりも母校の記念事業に對し質問やら希望やらを述べ久り振りに上田の氣分に浸ることが出來た。

ビールの空罐の數に比例して酔も相當廻つて來た。狭い船の中で岐阜提灯の薄暗い光ですかして見ながら自己紹介があつた。

今晩は長年朝鮮で役人生活を続け今は熊本の片倉製絲蠶業課の要職に納つた眞包さんと長年病床にあつて顔を見せなかつた鹿本の村田さんが初めて見えられ會員一同をよるこぼせた。

時過ぎるに従つて奇麗澄々湖面に満ち騒然として來た。新顔の眞包さん村田さん御兩人の元氣は大したものでメートルの上ること素晴らしい。

會費領收

昭和十年度通常會費納入者 (〇印は蠶絲學雜誌代共)

〇橋本 武光(蠶七) 淺野 清志(蠶七) 〇神原 敏男(蠶七) 枇杷木龍雄(蠶九) 半田 義雄(蠶七) 多田 作造(蠶七) 守屋 一郎(〇) 淺川 茂樹(〇) 坂口 育三(〇) 小林 敏(〇) 古平 義雄(〇) 清水 重雄(蠶十) 竹内 健二(蠶十) 關 嘉四郎(蠶十) 中村壽恵男(蠶七) 崎山 正克(蠶七) 大橋富治郎(紡七) 宮下和三郎(紡七) 河村 信夫(紡七) 終身會費完納者 湯川 秀夫(蠶一) 比田井政治(蠶廿二) 入會金納入者 完納者 比田井政治(蠶廿二) 金五圓也 田近 肇(蠶廿二) 蠶絲學雜誌代納入者 金壹圓也 有賀 康人(蠶十四) 比田井政治(蠶廿二) 横山 忠夫(蠶廿二)

遠來の客の爲め熊本の但詣の數々を市丸(東京の市丸でないこと)をお断りして置くが美聲？をあげて唄つた。

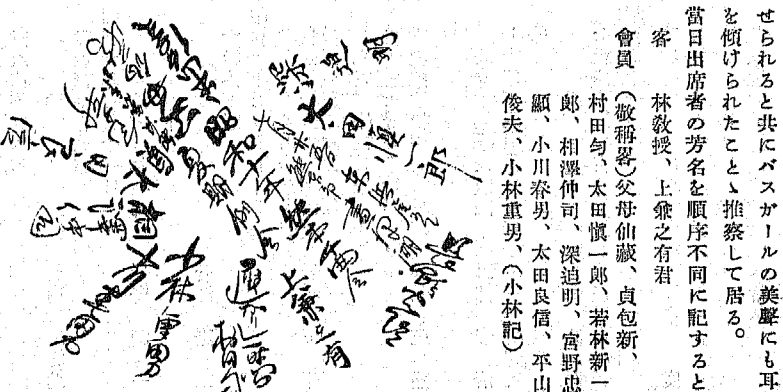
時計の針は何時の間に進んで居た。下居つたのは十一時頃か。湖上で引込んで居つた汗は、一時に堰を切つて流れ出した。

林教授は司旅館にて寝苦しい熊本の一晩を過ぎられ翌二十六日は早朝熊本發大分へ向はれ途中小川君の御案内にて國立公園大阿蘇へ登山雄大な阿蘇の風光を賞

せられると共にバスケールの美聲にも耳を傾けられたこと、推察して居る。當日出席者の芳名を順序不同に記すると

客 林教授、上兼之有君 會員 (敬稱寄) 父母仙藏、眞包新、村田句、太田慎一郎、若林新一郎、相澤伸司、深迫明、宮野忠顯、小川春男、太田良信、平山俊夫、小林重男、(小林記)

せられると共にバスケールの美聲にも耳を傾けられたこと、推察して居る。當日出席者の芳名を順序不同に記すると



計報

弔慰金報告

故居相泰一氏弔慰金第四回 金貳圓也 櫻井 吉利 累計金九圓也 故小林實一氏弔慰金第七回 金壹圓也 本橋万三郎 累計金壹百六拾四圓也 故越智岩平氏弔慰金第四回 金壹圓也 上林多兵衛 小島 杉門 右合計金貳圓也 累計金貳拾六圓也 故原亮敏氏弔慰金第二回 金貳圓也 千曲會 藤原 卓之 大石 卓壽 金壹圓也 濱井 壽夫 田中 福男 右合計金拾圓也 累計金貳拾八圓也 故治田周造氏弔慰金第二回 金參圓也 千曲會 今村 良郷 金壹圓也 高山 裕 北島 正生 右合計金九圓也 累計金拾七圓也

正誤訂正

千曲時報第六十四號八頁故原亮敏氏弔慰金中 金貳圓也 小川 保は 金壹圓也 小川 保と訂正 合計金拾九圓也を金拾八圓也に訂正す 同故沼田周造氏弔慰金中 金壹圓也 穂坂小牧と發表せしは誤記に付き抹消 合計金九圓也を金八圓也と訂正す

故馬場豊氏 御遺族よりの禮狀

拜啓炎暑之候貴會益々御隆盛奉賀上候 陳者先般息豊死去候節は多大の御配慮を蒙り候處尙又此度は過分の御香花料を賜り難有拜受佛前に供し故人の冥福を祈り候 先は不取敢年失禮書中を以て御厚禮申上度如斯に御座候 敬具 昭和十年七月十二日 馬場 漸次 千曲會御中

故梅澤庫太郎氏 御遺族よりの禮狀

拜啓 灼熱する御暑さ凌ぎ難き頃と相成り候 鈴蘭吹く高原の夏をいづる偲ばれ申候 過ぐる春淺き日主人のみまかりし折には種々皆々様に御厚情辱ふし誠に感謝の至りにて御座候處又此の度は何かと御配慮相煩はし皆々様方の御同情のもとに思ひもかけぬ多大なる御香料御惠送いたゞき遺族一同只々感激いたすのみにて有難く拜受仕り候 お蔭様にて其の後子供達に救しい乍らも元氣に勉學消光いたし居り候まゝ他事乍ら御休心被下度候 誠に亂筆にて失禮には候へども右取り敢へず御禮のみ申上げ候 末筆乍ら諸先生はじめ御同窓皆々様へ何卒よろしく御傳聲のほど御願ひ申上げ候 かしこ 昭和十年七月廿一日 嗣子 梅澤 祐一郎 妻 梅澤 なみ 千曲會御中

故越智岩平氏 御遺族よりの禮狀

拜啓 炎暑の候に御座います皆々様には益々御清榮の御事と賀し奉り上げますさて去りぬる日主人の死去に際しては色々と御世話様に預り洵にありがたく厚く御禮申上げます 又此の度は御手厚き御香料を御送り下さり有難く頂戴致し早速靈前に供へ亡き主人の冥福を祈りました 先は書中を以て厚く御禮申上げます かしこ 昭和十年八月三日 妻 越智 伸子 千曲會御中

原亮敏君を憶ふ

原亮敏君が長逝された、我々養蠶科第二期生にとつて實に哀傷極まりないものがある。 原君は舊姓を有賀君と言つた、明治四十四年松本中學卒業後本校に入り大正四年第二期生として養蠶科を卒業された、確か卒業直後原姓を繼いだと記憶する、私共にははるかに此の有賀君の方が親しみ深い感がある、サラーイマンライフは福島と上田だけであつて夫れも極めて短時日の間であつた、上田を學窓とも就職とも最終の地として郷里松本元町に引揚げ養蠶科の衣鉢を繼いで小間物、藥、雜貨等の商店界に身を投じ前垂れ姿に早がはりして了つた、遂に夫れなり再び蠶絲業の水平線上に其影を表現すことは無かつた、自然、我等との交渉も薄くならざるを得ない、私も最後の面會は上田試験場の宿直室であつたと思ふ、公私の用件を帯して松本を屢々訪れたが遂に一度も相見する機會が無かつた。最初は力めて氏の情報をもとめたいけれども松岡同窓の誰一人として知るものは無かつた、いつとはなしに同窓意識から消へかけて居たことは偽らないう告白である。近來大分手廣く營業をして居る風聞を知つて尙かに成功を祈つて居た。

年第二期生として養蠶科を卒業された、確か卒業直後原姓を繼いだと記憶する、私共にははるかに此の有賀君の方が親しみ深い感がある、サラーイマンライフは福島と上田だけであつて夫れも極めて短時日の間であつた、上田を學窓とも就職とも最終の地として郷里松本元町に引揚げ養蠶科の衣鉢を繼いで小間物、藥、雜貨等の商店界に身を投じ前垂れ姿に早がはりして了つた、遂に夫れなり再び蠶絲業の水平線上に其影を表現すことは無かつた、自然、我等との交渉も薄くならざるを得ない、私も最後の面會は上田試験場の宿直室であつたと思ふ、公私の用件を帯して松本を屢々訪れたが遂に一度も相見する機會が無かつた。最初は力めて氏の情報をもとめたいけれども松岡同窓の誰一人として知るものは無かつた、いつとはなしに同窓意識から消へかけて居たことは偽らないう告白である。近來大分手廣く營業をして居る風聞を知つて尙かに成功を祈つて居た。



感がする、同期生中たつた一人人物故會員の祭壇に招じて生前を偲ばねばならぬのかと思ふと限りない哀悼を覺ゆるのである。 遺兒は原明敏氏十九才(目下中學五年生)を頭に五人、御令聞は現在の家業を其の儘繼承して元町一四三に遺兒の御教育に没頭せられつゝあるよし、我等切に今後の御幸福を祈つて止まない、最後に遺族慰問其他に就て久保田安筑千曲會長中澤幹事に種々御世話になつた事を厚く御禮申上げ。(倉澤)

故三谷徹氏記念 資金寄附者芳名

- 金參圓也 本橋万三郎 累計金一千四百六十三圓五十錢也 七級停下賜但當年分千六百圓支給 昭和十年七月三十日 英城縣立眞壁農學校教諭 橋本 廣 公立實業學校教諭 橋本 廣 高等官八等ヲ以テ待遇セラル 茨城縣立眞壁農學校教諭ニ補ス

叙任辭令

- 母校之部 昭和十年七月二十一日 教授 佐藤 春太郎 古谷 榮 藏 五級停下賜(各通) 同 緑本 優 製絲科同 市原 文 雄 願ニ依リ副手ヲ免ス(各通) 昭和十年八月一日 鏗塚 好作 副手ヲ命ス 養蠶實習室勤務ヲ命ス 卒業生之部 昭和十年七月五日 地方農林技師ニ任ス 長瀬 深見 高等官七等ヲ以テ待遇セラル 地方農林技師 長瀬 深見 北海道廳農林技師ニ補ス 昭和十年七月十日 生絲検査所技師 沖 濤 治 陸叙高等官四等 竹内 五之助 陸叙高等官五等 昭和十年七月十一日 地方農林技師 岸野 潤一 十一級停下賜 菅澤 隆三 十級停下賜 同 菅澤 隆三 昭和十年七月十七日 愛媛縣立松山農學校 岩村 市郎 教諭兼倉敷青年學校教員養成所教諭從七位 公立實業學校教諭ニ任ス 高等官七等ヲ以テ待遇セラル 愛媛縣立松山農學校教諭兼倉敷ニ補ス 公立實業學校教諭 野澤 泰治 七級停下賜但當年分千六百參拾圓支給 同 吉野 健 吉 七級停下賜但當年分千六百圓支給 昭和十年七月三十日 英城縣立眞壁農學校教諭 橋本 廣 公立實業學校教諭ニ任ス 橋本 廣 高等官八等ヲ以テ待遇セラル 茨城縣立眞壁農學校教諭ニ補ス

廿五周年記念事業

廿五周年記念祝賀式

期日繰上

廿五周年記念祝賀式は十月二十二日ヨリ六日間に亘り舉行される如く發表せるも講演會の都合に依り一日繰上げ十月廿一日ヨリ六日間に亘り舉行される事に決定した。即ち次の如くである。

十月十七日 陸上運動會

全 廿一日 祝賀式

全 廿二日 記念講演會 講師 恩勞會

全 廿三日 物故職員卒業生追悼會

全 廿四日 音樂會 校內一般開放

全 廿五日 校內一般開放

全 廿六日 職員生徒恩勞會

校長先生壽像原形完成

校長先生壽像は石井鶴三先生のアトリニ於て渾身製作せられたつゝあつたが此程原形完成し八木誠政、兒玉忠雄兩氏が同アトリニを訪問し其の見事なる出来榮えに感激して來たと報告があつた。

千曲會館上棟式舉行

七月六日地鎮祭を行ひ工事に着手せる千曲會館は其後工事順調に進み基礎工事も終へて八月六日午後三時より現場に於て母校職員及卒業生列席の上、上棟式を舉行した。完成は九月一杯の見込である。

第十五回醸出金申込者

(七月卅一日現在)

- 五口 野崎 清(蠶四)
四口 永井 眞吉(蠶一八)
桑田 庄七(蠶八) 長池 遊龜(蠶六)
依田 武治(蠶九) 竹内健二(蠶一〇)
三井 坂田 武(蠶一六)
二口 前田益藏(蠶一〇) 大谷隼人(紡七)
一口 羽吉 正雄(蠶二二)
土屋 安治(蠶二二)
清水 重雄(蠶一〇) 追加分
北野三郎(紡一四) 田玉 豊子(教八)
合計人員 十四人
合計口數 三十七口
合計金額 壹百八拾五圓也

第十五回醸出金納入者

(七月卅一日現在)

(〇印は完納を示す)

- 金貳拾五圓也 〇宮田 鐵五郎(蠶二)
金貳拾圓也
〇日野 光平(蠶八) 〇桑田 庄七(蠶八)
〇永井 眞吉(蠶二〇) 〇中島 眞(蠶三三)
〇長池 遊龜(蠶六) 〇石川 健丸(蠶六)
〇西山 誠治(蠶七) 〇依田 武治(蠶九)
〇竹内 健二(蠶二〇)
金拾五圓也
〇湯川 秀夫(蠶一) 〇片岡清治郎(蠶五)
〇西山 市三(蠶九) 〇大崎 征内(蠶二四)
〇淺野 清志(蠶五) 〇坂田 武(蠶六)
〇木内 保平(蠶二) 〇平塚 政吾(蠶三)
金拾圓也
〇鶴田 定平(蠶一) 〇佐藤良太郎(蠶二)
〇藤原 卓之(蠶二) 〇小山田啓造(蠶六)
〇天野 武良(蠶七) 〇小山 哲夫(蠶四)
〇塚田 庸男(蠶九)
〇勸使河原齋之助(蠶九)
〇伊藤 柳作(蠶一〇) 〇小林 茂雄(蠶一)
〇西川 梅次郎(蠶七) 〇清水 重雄(蠶二)
〇前田 益藏(蠶二〇) 〇櫻井 沈(蠶二)
〇荒木 慎藏(蠶一〇) 〇桐原 達郎(蠶八)
〇本間 茂鏡(蠶九) 〇安井 健一(紡七)
〇大橋富次郎(紡七) 〇松崎 武雄(紡七)
金五圓也
〇矢深茂登(蠶一〇) 〇森 干城(蠶一)
〇小島 五郎(蠶二〇) 〇北澤 茂(蠶一)
〇小林 庸(蠶三) 〇近藤 正巳(蠶三)
〇青木針三郎(蠶三) 〇中尾小太郎(蠶四)
〇神原鶴次郎(蠶四) 〇佐藤 俊三(蠶四)
〇宮島 庄平(蠶七) 〇又木 善義(蠶七)
〇萩野 徹間(蠶八) 〇高橋 汎一(蠶八)
〇市川 圭一(蠶八) 〇中島 文雄(蠶九)
〇吉二 好
中會根長男(蠶四) 〇降旗 孝(蠶五)
〇藤本衛佐雄(蠶六) 〇宮本 清松(蠶六)
〇和田 敦(蠶一〇) 〇朴 均 宅(蠶九)
〇入佐 恒夫(蠶三) 〇町田 史郎(蠶三)
〇羽吉 正雄(蠶三) 〇沖 濤治(蠶二)
〇甲斐 隆(蠶二) 〇酒井五十三(蠶二)
〇竹内五之助(蠶三) 〇岡村 源一(蠶六)
〇山口 貞周(蠶六) 〇岡場 友一(蠶六)
〇楠田元之助(蠶七) 〇古郡 友一(蠶七)
〇堀 忠太郎(蠶九) 〇倉橋 琢而(蠶三)
〇牧野 春雄(蠶二〇) 〇島山茂忠太(蠶三)
〇土屋 春男(蠶三) 〇黒岩京次郎(蠶九)
〇土屋 安治(蠶三) 〇北野 三郎(紡一四)
〇田玉 とも(教八)
合計金額 七百六十圓也
累計金額 萬參千七百九拾四圓參拾錢也

會員動靜

(七月五日現在) 五十音順

- 市原 文雄(蠶二二) (勤)昭榮製絲須坂工場(上高井郡須坂町)
河西 尚一(紡二) (勤)大阪市北區堂島濱通二丁目堂ビル二階、日本紡織研究所
川島 信夫(紡一) (勤)改姓(勤)ナシ(住)三重縣津市出口町
北原 基(紡八) (勤)金澤市長町川岸、金澤輸出絹織物検査所
兒玉 慶次(蠶八) (勤)岡崎市、日本レイヨン岡崎工場(住)勤務先社宅
高橋 伊作(紡一四) (勤)京都府綾部町、那製絲株式會社(住)神戸市灘區灘北通八丁目六〇一
塚田 庸男(蠶一九) (勤)松本市、片倉蠶業試驗場(住)松本市若松町、森方探本 優(蠶二一)
西田勇三郎(紡一六) (勤)愛知縣豊川町、愛知縣蠶業試驗場豊川支場
福島 喜藏(紡一八) (勤)鳥取縣倉吉町、那製絲倉吉工場
藤田志津子(教三) (勤)諏訪郡湖南村、株式會社東英社
朴 燮(蠶一) (勤)三重縣三重郡大矢知村垂坂、龜山製絲五島工場
見波 忍(紡二) (勤)廣津郡龍(住)朝鮮廣津郡邑内官舎
吉津 柏(紡五) (住)大阪府住吉區天下茶屋二丁目五番地
和田 りん(教三) (勤)長野縣諏訪郡長池村、丸九渡邊製絲所
署中御伺申上候
昭和十年盛夏
都城市外沖水
昭利蠶業株式會社都城蠶種製造所
穂坂小牧
署中御伺申上候
昭和十年盛夏
都城市外沖水
昭利蠶業株式會社都城蠶種製造所
内田訓之亮

晚秋蠶種

優良新品種

絶對消毒證明付

新品×國蠶日一一七號
本品ハ本年始メテ一般ニ配付セラレタ
國蠶品種ノ最優良ナモノデ蠶作ノ安定
ハ勿論十四中五粒付ニ恰適シ絲質亦良
好ニシテ高級絲原料ニ適ス
本社×分離白一一六號
特選×國蠶支一〇六號
既ニ定評アル分離白ヲ改良セシモノニ
シテ飼育極メテ容易絲質良好ニシテ高
級絲原料ニ適ス
南國ノ情緒豊ナ國立公園大阿蘇ノ高
原、清澄、冷涼ナル本社分場ニ於テ
優秀ナル技術ト多年ノ經驗ニ依リ製
造シタル晚秋蠶種ヲ提供致シマス

御注文ニ就而 安定作 豐卵量

熊本市大江町六〇五(市大江電氣局前下車)

長野製種組

電話 五九八・替振 熊本市三〇〇番

會食に御宴會

レストラン

香青軒

いた付落室洋な明

和室(數室)

電話13番 上田市袋町

上飯島商店

電話二六〇・二五四

千曲會指定旅館 上村ホテル 電話 上田市海野町 電話三二七番